

一枚ポートフォリオ評価を活用した 大学の授業改善の試行について

貫井 正納^[1] 植草学園大学発達教育学部

OPPA-Based Learning Records to Improve University Education

Masanori NUKUI Faculty of Child Development and Education Uekusa Gakuen University

本学2年生の理科教育指導法の授業で一枚ポートフォリオ評価OPPA(One Page Portfolio Assessment)を利用し授業の改善を試行した。OPPAとはA3判の用紙に半期14回分の授業記録と授業に対する自己評価欄が作られ、毎回の授業ごとに授業の理解内容を記録し、最終の授業終了後にそれら記録内容の履歴を振り返り、自己評価をおこなうものである。OPPA利用の結果、学生には文章作成の能力に改善が見られ、授業に対する自己評価から今後の学習改善の方針を示した。

キーワード：OPPA, 自己評価, 授業評価

In a science education methodology course for second year (sophomore) university students, an instruction improvement method based on one-page portfolio assessment (OPPA) was attempted. In the self-evaluation column of an OPPA (size A3 paper), students were asked to summarize and evaluate their understanding of the course materials covered after each session. At the end of a course of 14 sessions, students were asked to perform self-evaluations based on their OPPA record history. The students' OPPA records demonstrated an improvement of their writing skills, and their self-evaluations reflected insightful perspective on how to improve their future studies.

Keywords: OPPA, Self-evaluation, Assessment of Instruction

1. はじめに

これまで色々な形のポートフォリオ評価が行われてきた。ポートフォリオ評価は学習の過程における様々な資料を集積する。そこには多くの情報が含まれているので、それらを評価目的に応じて取捨選択し学習過程を分析していくことになる。

この方法で記述内容を解釈し、学習者を評価することは大変な労力が必要である。

比較的簡単な方法として織田¹⁾が考案した大福

帳による授業評価法があった。この方法は、一コマの授業でB6判位の用紙1枚に授業の内容、感想などを学生が自由記述で行う授業評価法であった。筆者も試してみたが、記述内容が多岐にわたり、それらを読み取ることは大変な労力を必要とした。その後、大隅²⁾が数枚のシートに学習内容の中から取捨選択した重要な資料をまとめて貼り付けるディスプレイ型ポートフォリオを紹介した。

今回試行した一枚ポートフォリオ評価OPPAは、あらかじめ構成されたシートに、学習者が求められ

[1] 著者連絡先：貫井正納

一枚のOPPシートの基本的構成は、授業回数分の学習履歴枠と、授業後に記録された学習履歴を振り返り、自己評価した内容を書くやや大きめの自己評価枠からなる。また、授業の目的に応じて、学習

2. 本学における試行について

本学におけるOPPAの試行は2009年後期の2年生を対象とした理科教育指導法の授業で実施した。受講学生数は20名であったが、途中実習で欠席者が多くでた。試用したOPPシートは図1と同じ型でA3判用紙に14回分の学習履歴の欄と右下の所に自己評価欄を作り、二つ折りにして授業の時には常に所持するように指示した。授業時間数は15回であるが、15回目はまとめの授業や宿題の整理、OPPAの自己評価、OPPAの書き加え等の作業に使い、すぐ提出させるため学習履歴欄は14回とした。学習履歴欄は5分位で書き終わる分量と予想し、授業はやや早めに終わらせ、その場で記入するよう指示したが、書き終わらない学生には授業日中に記録するように指示した。提出は2回で、第1回目はセメスターの半



ばに行いコメントをつけ返却した。最終提出は授業最終日でOPPAシートをコピーし提出させた。第14回目の授業でOPPAの評価規準についての講義を行い、第15回目までにOPPシートに書かれた記録を振り返り授業についての自己評価を行った。

学習履歴欄に書く内容は、授業内容、授業理解の状況、特に感じたこと、授業についての感想等内容を限定せず、比較的自由に書かせた。

受講学生は小学校教諭免許取得を目的としているが、将来の就職先としては保育園、幼稚園、特別支援学校等の志望者が多く、小学校志望者が少数であることから幅広い意見を聴取したいと考えたからである。

3. OPPIAを利用した授業における効果

3.1 OPPシートを書くことにより筆記文字数が増加する傾向が見られた

毎週1回の授業で、学習したこと、感じたことなどを5分位の時間で書き続けているとセメスター末には筆記文字数が多くなる傾向が見られた。

図2は各授業回数ごとの筆記文字数の変化を示したものである。横軸は授業回数、縦軸は筆記文字数(句読点を含む)である。グラフAの×印は欠席が少なく、比較的筆記文字数が多い学生である。Bの▲は欠席が多く筆記文字数が少ない学生だが、授業の最後の方では増加の傾向を示した。Cの●印は最後まで筆記文字数が多くならなかった学生である。この学生は少数であった。Dの◆印は実習等で欠席が多い学生であるが、筆記文字数は多かった。

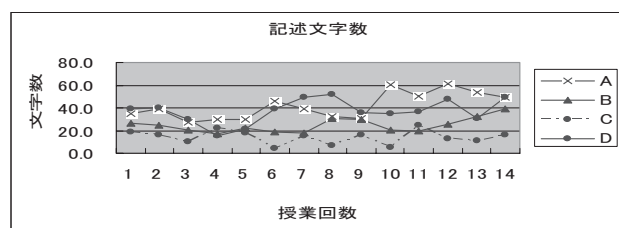


図2 各授業における平均筆記文字数(単位文字数)

最初の数回は授業の内容項目だけを書くだけであったが、6回目頃から筆記文字数や書かれる内容に変化が表れてきた。その一例として、図3はそれまでの履歴を読んで書くことの意味を理解し、改め

て詳細な内容を書こうと決心したAに属する学生の記述である。この学生はその後も学習内容だけではなく、授業で感じたことや反省などを粹いっばいに書くようになった努力型の典型的な学生であった。Aグループの学生はだいたい同じ傾向を示し、筆記文字数が増加してきた。Dグループの、実習のため欠席が多かった学生は、連日実習記録簿を書いてきた経験の為か、どの学生も筆記文字数は多かった。

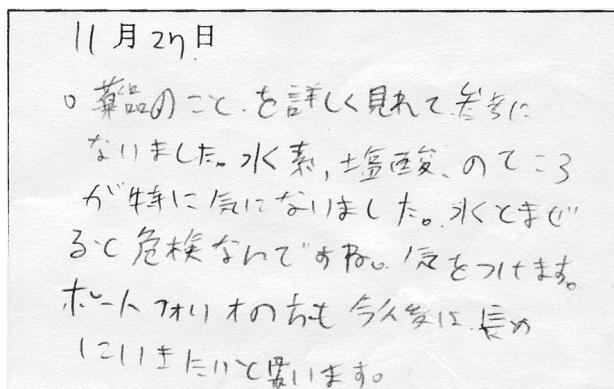


図3 変化してきた記述内容

3.2 記述内容の変化

大半の学生は授業開始後5回目の授業ぐらひは、当日の授業題目と過去の記憶について書かれ、覚えていない、忘れていたという内容が大半であった。図4に見られるよう理科の基礎的な内容についてもうる覚えで、かなり理科との関わりが薄い状況を示した。6回以後の授業では、筆記文字数がやや増加してきた。授業内容について記載する例は少ないが、各自の理科に対する状況、構えに目を向けたような内容が増加してきた。

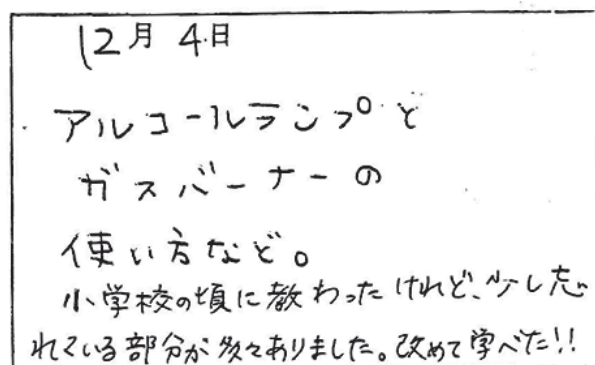


図4 理科の不得意な学生の記述

3.3 自己評価の内容について

OPPシートの記入が終わった最後の時間にポートフォリオ評価についての講義を行い、学生各自に評価規準を作らせ、それを参考にして自己評価を行わせた。15回目の授業でOPPAのコピーを提出させた。学生は14回にわたる自分の記載内容を読み返し、基礎学力の不足をあげていた。特に記載が多かった例は、理科嫌いが原因で理科の学習を避けてきたために学習内容の理解ができなかったことであった。しかし、14回にわたる授業記録から自己の学習態度を振り返り、OPPシートにもっと書くべきであった、自己の認知能力を高めるべきであったと反省している学生が多かったのはOPPAの効果が表れたものといえる。

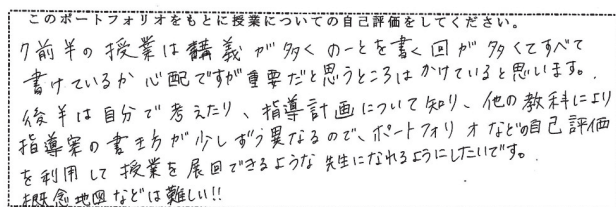


図5 授業後に書かれた自己評価（1）

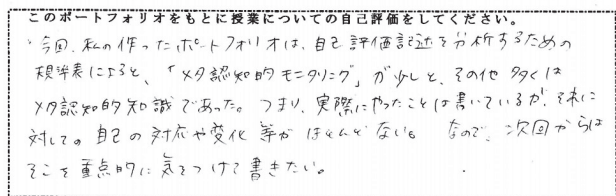


図6 授業後に書かれた自己評価（2）

4. OPPAを大学の授業で利用するときの課題

4.1 今回の試行における課題

今回の調査は受講学生数が20名でサンプル数としては少なかった。その上、授業の途中に実習で学生が出入りし、連続した記録がとれなかったことは課題としてあげられる。筆記文字数は授業回数が増えるにつれて増加する傾向は、他大学の実践でも確認されていた。本大学の少ないサンプルでも同様の傾向は見られた。今後の課題の一つは、少人数授業におけるOPPAによる、学生の真正の評価法の開発である。

4.2 OPPAの調査目標が不明確であった

この実践を行ったのは本学は開学2年目の時で、学生数は少なかった。学生は理科に対する学習意欲は低く、基礎的事項の理解が不十分であったため、OPPAの中に講義内容を反映させることは不十分であった。しかし、このOPPAを見る限りでは学生は分からないからと放棄してしまうのではなく、学習履歴を振り返り基礎の学力の必要性を感じ取っていることが読み取れた。学習に臨む不適切な行為として寝てしまったと書いている学生がいたが、これは教師側がそのような状態を放置していた事が問題で、授業参加をさせるのか工夫が必要である。今回は比較的自由にOPPシートに書かせたが、授業内容の理解、学生自身の授業に対する考え等の記述する内容を限定したほうが授業設計をするうえで良かったのではないかと反省している。

4.3 OPPAの回収の方法

授業の終了直後にOPPを書かせ、すぐ回収する方法が良いと考える。この場合記述する時間はおおよそ5分位を予想した記載枠を用意してあるので授業時間内で回収が出来、同時に出欠もとれる利点がある。今回その方法をとらなかったのは、小さな枠内であったが、学生が不慣れであることと文章作成し記入するために比較的時間がかかったこと、次の授業にすぐ移動しなければならない実情があったことである。その実情に加え、学生に授業について後から考える時間を与えたいと考えたので授業後の提出は求めなかった。毎授業ごとに回収するのは教師に負担がかかるが、月に1回程度は回収し、教師のコメントを入れておく効果がある。

4.4 最後に

本試行では、大学の授業改善の一方法としてOPPAを利用した方法で検討を行った。少子化の影響から、大学入学希望者がほぼ全員入学できるようになったことを受けて本学では、学生の質をいかに高めるかを模索し「履修のカルテ」や「学びのコンパス」等を使い授業の改善を計っている。そのような現状においてポートフォリオは自己評価能力を育成する有力な方法である。これまでのポートフォリオは、膨大な資料を蓄積し分析するため、教師、学

習者共に負担が大きく簡便に利用が出来なかった。OPPAでは負担の軽減が図られ、効果も期待できるので利用者が拡大することを期待している。

現在では、電子ポートフォリオ（デジタルポートフォリオ）の利用が広まってきた。これは学習者が携帯電話等を端末として利用し、随時、教師側のサーバーに求められた情報を送信する方法である。利用の手軽さや多様な分析が可能で、将来、授業や実習等の評価法として拡大していくことが予想される。しかし、現在の学生は文章作成能力が低く、絶えず文章を読むこと、記述することに力を注ぎ文章作成能力を高めていく必要がある。

今回のOPPAは文章作成能力の育成を図る一つの方法としても適切な方法である。

5. 文献

5.1 引用文献

- 1) 織田揮準. 大福帳による授業改善の試み. 三重大

学教育学部研究紀要（教育科学）別冊. 1991: vol.42; 167-169.

- 2) 大隅紀和. ディスプレイ型ポートフォリオ. 黎明書房. 2002.
- 3) 堀哲夫. 子どもの学びを育む一枚ポートフォリオ評価: 理科. 日本標準. 2004: 10-11.

5.2 参考文献

- 1) 堀哲夫編著. 子どもの成長が教師に見える一枚ポートフォリオ評価: 中学校編. 日本標準. 2006.
- 2) 堀哲夫編著. 子どもの成長が教師に見える一枚ポートフォリオ評価: 小学校編. 日本標準. 2006.
- 3) 貫井正納. メタ認知の育成過程に関する研究—ポートフォリオ評価法を用いて—. 日本科学教育学会第28回年会（千葉大学）. 2004.8.6.
- 4) 堀哲夫. 学習履歴を中心にした大学の授業改善に関する研究—OPPAを中心にして—. 教育実践学研究14, 2009.